

第 21 回猪名川部会（2004.9.1 開催）結果報告		2004.9.10 庶務発信
開催日時：	2004 年 9 月 1 日（水）16：00～19：05	
場 所：	天満研修センター 101 ホール	
参加者数：	委員 8 名、 河川管理者（指定席）12 名 一般傍聴者（マスコミ含む）73 名	
1．審議の概要		
①余野川ダムサブWGについて		
本多サブリーダーより、資料 1「余野川ダム SWG 結果報告、議事内容」を用いて、余野川ダムサブWGにおける検討経過の報告が行われた。		
②河川整備計画基礎案に係る平成 16 年度事業の進捗点検について		
河川管理者より資料 2「河川整備計画進捗状況」およびビデオを用いて河川整備計画進捗状況や福井県の洪水について説明が行われた後、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り（例示）。		
・流域委員会の提言と河川管理者の基礎案に齟齬や乖離があった場合、改善していく仕組みが必要。		
・河川管理者から提示されている越流破堤を防ぐための工法には不満だ。検討をお願いしたい。		
←越水対策のための体系的な検討には、コストや環境も配慮する必要がある（河川管理者）。		
・対象降雨の選定基準がよくわからない。河川整備計画が対象としている 20～30 年は、引き延ばし降雨ではなくて、既往最大の実績降雨で検討を進めていくべきだ。		
・銀橋・狭窄部を開削した場合の検討は行っていないのか。		
←狭窄部上流の浸水被害対策の代替案の 1 つとして検討をしている。下流の神崎川の治水も合わせて、総合的に検討している。結果が出れば、すぐに示したい（河川管理者）。		
・資料 2 の P45 では、河川利用の縮小策を「申請者（〇〇市）から更新申請がなされない場合」とすると書かれている。この書き方だと、更新申請があれば、河川管理者は河川利用の縮小に向けて動かないというように受け取れる。これでは、委員会の提言から後退してしまっている。		
←強制的に河川利用を排除するわけにはいかない。まずは、住民や自治体の理解を得ることが大切だと思っている（河川管理者）。		
・外来種対策として、何か実行したことはないのか。また、河道内樹木は、治水上、プラスなのか、マイナスなのか。河川管理者として、今後、河道内樹木をどのように扱っていくのか。		
←外来種対策として草刈りや発芽を抑制するための芽摘みに取り組んでいる。また、河道内樹木に関しては、猪名川自然環境委員会に審議して頂き、間引きや伐採を実施していきたいと考えている（河川管理者）。		
③余野川ダムについて		
第 4 回ダムWGで配布された資料 1-7「余野川ダムの効果について」について、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り（例示）。		
・ダムについては、利水や治水計画全体を考えた議論をしなければならない。神戸市では、平成 11 年に湊川の氾濫が起きたが、これを受けて、烏原貯水池 140 万 m³を治水用のダムとして使っている。貯水池の上流に建設予定のダムが完成すれば、元のとおり、上水用の貯水池として使うようになるが、こういった転用もあり得るだろう。ダムWGでは、「どこまで整備すれば、どこまで浸水被害を軽減できるのか」といったレベルを明確にしていくことが大切だ。		
・ダムWGでは、ダムの効果を検討する際の対象降雨として、引き延ばし降雨ではなく、既往最大の実績降雨を基準にして検討を進めていこうという議論が行われた。余野川ダムでは、昭和 28		

年 9 月降雨の 1.5 倍と 1.8 倍を用いて検討しているが、これはなぜか。流域全体で見れば既往最大の降雨である昭和 28 年の実績降雨についても、検討をして結果を示してほしい。

←昭和 28 年 9 月の 1.5 倍は下流において浸水被害が発生し出す降雨倍率、1.8 倍は現行計画で採用している降雨倍率である。実績降雨については、昭和 35 年 8 月降雨で計算をしている。

昭和 28 年の実績降雨では、氾濫が発生しないので、検討結果は示していない（河川管理者）。

←ダムWGでは、狭窄部上流の浸水被害を軽減策を検討する際の、基準とする降雨について議論をした。銀橋・狭窄部下流については対象降雨を決めていないので、これから検討していかなければならないと思っている（河川管理者）。

- ・第 4 回ダムWGの資料 1-7 P21 では、余野川ダムの効果として、8,096 億円の浸水被害軽減効果があるとなっている。この金額の算出根拠を教えてください。

←猪名川流域は、住宅や工場が密集していることに加えて、歴史上の資産も多い。これが浸水した場合の被害額を積み上げて算出した。算出根拠については示したい（河川管理者）

- ・銀橋・狭窄部を開削して流下能力を 1,000m³/s にまで高めたケースや一庫ダムの嵩上げを行ったケース等、複合的な検討結果は出せないのか。

←今のところ、別々に分けた検討結果を示している。今後は当然、複合的な条件のもとで検討していく必要があると思っている（河川管理者）。

- ・兵庫県が管理している猪名川本川や銀橋上流の区間の整備との整合性はとれているのか。

←兵庫県の改修計画として、銀橋の上流で築堤を実施している。これについては、河川整備計画の期間内に達成される予定のものについては考慮して検討を行っている（河川管理者）。

- ・下流域の水位低下対策として、河道掘削や土砂の除去も考えられる。せひ、検討してほしい。

←当然、検討すべき案だと思っている。代替案の中で検討結果を示したい（河川管理者）。

2 今後のスケジュールについて

庶務より、資料 3「委員会における今後のスケジュール」を参考に説明があった。その後、部会長より、「余野川ダムの現地である、止々呂美地区で部会を開催し、地元住民の意見を聞く必要があると思っている。止々呂美地区での部会開催も視野に入れて、日程調整を行い、月一回程度の頻度で部会を開催していきたい」との報告がなされた。

3 一般傍聴者からの意見聴取：一般傍聴者 1 名より発言があった。主な意見は以下の通り。

傍) 堤防強化について議論を深めるのは非常に大切だ。新潟や福井の洪水災害では、上流のダムは流出量の抑制効果があったと思うが、最終的に破堤した。一番重要なのは、越流しても破堤しないための堤防強化である。また、委員会では、コストについて議論されていない。ダムよりも堤防強化の方が安い。まずは堤防強化が先決。それから、銀橋上流で築堤整備が完成すれば、多田地区の浸水被害はなくなり、銀橋狭窄部の開削と同じ効果が得られるという点に留意してほしい。

←新潟の洪水災害では、限界があったとしても、ダムによる水位低下効果はあったことは確かだ。福井の洪水災害の原因に関しては、調査委員会で原因究明が進んでいる（委員）。

※このお知らせは委員の皆様主に主な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させていただくものです。